早稲田大学 人間科学学術院 人間科学会 諸費用補助成果報告書（Web 公開用）

申請者（ふりがな）	松本 菜々子　（まつもと ななこ）
所属・資格（※学生は課程・学年を記載。卒業生・修了生は卒業・修了年月も記載）	修士課程 1 年
発表年月 または事業開催年月	2022 年 10 月
発表学会・大会 または事業名・開催場所	日本認知・行動療法学会　第 48 回大会
発表者（※学会発表の場合のみ記載、共同発表者の氏名も記載すること）	松本 菜々子・梅田 亜友美・大月 友・石津 憲一郎
発表題目（※学会発表の場合のみ記載）	Self-Compassion Scale for Youth 日本語版作成の試み

発表の概要と成果（抄録を公開している URL がある場合、「概要・成果」を記載した上で、URL を末尾に記してください。また、抄録 PDF は別途ご提出ください。なお、抄録 PDF は Web 上には公開されません。）

【概要】

近年の 10 代を対象にした SC 研究では，SC は好奇心，探究心，レジリエンス（Bluth, Mullarkey, & Lathren, 2018）と正の相関があり，不安，抑うつ，ストレス（Marsh, Chan, & MacBeth, 2018）と負の相関を示すことが明らかになっている。しかし，青年期を対象とした SC 研究の大部分が青年期後期を対象に行われていることが課題点とされている（Neff et al., 2021）。Neff（2021）は，青年期初期を対象とした SC 研究が比較的少ない理由として，年齢に見合った十分な尺度が開発されていないことを指摘し，青年期初期を対象とした Self-Compassion Scale for Youth（以下：SCS-Y）を作成した。しかし，本邦においてはいまだ開発されていない。そこで本研究では，Self-Compassion Scale for Youth 日本語版（以下：SCS-Y 日本語版）を作成し，その尺度の信頼性と妥当性を検討することを目的とした。

【成果】

因子構造について，SCS-Y 日本語版は原尺度（Neff, 2021）と同様に 6 因子モデルとなり，適合度を示す CFI，RMSEA，SRMR の値は Neff（2021）が示す基準を満たす結果となった。そのため，SCS-Y 日本語版は原尺度（Neff, 2021）と概ね同程度の適合度を確保していると考えられる。

信頼性について，内的整合性において孤独感以外の下位尺度は α=.70 以上を示さなかった。また，再検査信頼性においても共通の人間性およびマインドフルネスが Neff（2021）の基準値を下回っていた。一方で，尺度全体の内的整合性及び再検査信頼性係数は概ね十分な値を示したことから，本尺度を使用する際に合計点を算出する分には問題ないと判断した。

構成概念妥当性について，目標志向のマスタリー目標志向とは弱い正の相関を示し，仮説を支持しなかった。しかし，その他の指標とは原尺度（Neff, 2021）と同様の結果となり，仮説を支持した。そのため，概ね十分な妥当性を有していると考えられる。

https://yocto.ibmd.jp/jabct2022/w/files/jabct48v2.pdf

※無断転載禁止